

## 実用新案公報

庁内整理番号 6814 - 38

⑭公告 昭和50年(1975)6月9日

(全2頁)

1

⑮キャップと中栓との間に収納室を有する場

- ⑯実 願 昭44-26088  
⑰出 願 昭44(1969)3月24日  
⑱考 案 者 野沢孝光  
東京都杉並区上荻2の17の10  
⑲出 願 人 株式会社吉野工業所  
東京都江東区大島3の2の6  
⑳代 理 人 弁理士 渡辺軍治

### 図面の簡単な説明

第1図はキャップと中栓とを縦断して示す斜視図、第2図は中栓を嵌合したキャップを壔口へ嵌合する前の状態における縦断面図、第3図は中栓つきキャップを壔口へ嵌合した状態での縦断面図、第4図はキャップのみを離脱した状態での縦断面図である。

### 考案の詳細な説明

本案はキャップと中栓との間に収納室を設けた壔に係るもので、壔内とその収納室とにそれぞれ別々に収納した状態でメーカーから消費者まで渡され、消費者がその使用に際してキャップを開ければ同時に収納室が開孔され、その収納室内収納物が壔内収納物と混合されるように設けたものである。

以下図面について説明すると、1は口部へ螺条を周設した壔、2は壔口部へ螺合するようにした周壁3を有するキャップで、その頂壁4の裏面からは内部を収納空間5とする下面開放の筒状周壁6が垂設してある。

7は中栓で、その周壁8の外周は前記壔口部内面へ緊密に嵌合可能とし、その周壁8の上端にはその落込み防止のため壔口頂面へ載置可能な外向きフランジ9が周設してある。10は中栓の底板で、該底板には、中栓7を壔口部へ嵌合した状態においてさらにキャップ2を螺合締付けしたときキャップの筒状周壁6の先端周縁部が緊密に嵌合可能とした周設溝11が設けてあり、かつ該周設

2

溝11の底面には漏出孔12が設けてあつて、キャップ2だけを壔口から除いたとき筒状周壁6の先端周縁部により閉塞されていた漏出孔12が開孔するようにしてある。なお底板10には図で示すように適宜傾斜角度を設けて漏出孔12が開孔したとき、筒状周壁6とキャップ頂壁4、および底板10とにより形成された収納室内収納物が漏出孔12から滑り落ちるよう設けるとよい。周設溝11と筒状周壁6の先端周縁部との間、および壔口と周壁8の外周との間、それぞれの間における摩擦による係合力は後者つまり壔口と周壁8との間の係合力を強く設け、中栓と共にキャップを壔口へ螺合した後、キャップを取除けるよう設ける。そのため壔口内面、周壁8の外周それぞれに係合段部13a、13bを設けるとよい。

使用にあつては、キャップの収納空間5へ別納収納物14を収納してその筒状周壁6の先端部を周設溝11へ嵌合して中栓7を係合させ、このように設けた中栓つきキャップを収納物を納入した壔の口部へ螺合する。この状態でメーカーから消費者まで運ばれ、消費者がキャップ2を取除くとそのキャップに設けた筒状周壁6先端周縁部の拔出しにより漏出孔12が開孔され、別納収納物14は壔内収納物と混合するものである。

25 本案は上記のように構成するものであるから、1個の壔内に2種の収納物を別々に、しかもその使用に際しては何らの手数を要せず混合できるから極めて便利であり、またそのための構成も極めて簡易であるから低廉なコストで生産することが可能である。

### ⑳実用新案登録請求の範囲

周壁上面へ設けた頂壁4の裏面から内部を収納空間5とする下面開放の筒状周壁6を垂設したキャップ2と、外面を壔口部内壁へ緊密に嵌合可能でかつその内部に前記筒状周壁6を挿入可能に設けた周壁8の下面には底板10を設け、該底板には前記筒状周壁の先端周縁部をやや緊密に嵌合できかつその溝底面に漏出孔12を設けた周設溝1

3

4

1を有する中栓7とをそれぞれ壺口へ嵌合可能と  
してなるキャップと中栓との間に収納室を有する

